

愛川町の取組



愛川町全体で推進する小中一貫教育の中で、同じ中学校区の小・中学校3校が共通の目標「主体的に人や社会と関わり、よりよく学び続けようとする児童・生徒の育成」を掲げ、「学びの継続」「一人一人への支援」「学校生活の充実」という共通の3つの視点をもって、「授業改善」や「教員交流指導」を推進しながら、学びの確かな継続のための取組を行う。

授業改善については、「学習の中の言語活動を通して思考力・判断力・表現力などを育む」ための校内研究を各校で推進しながら、相互の校内研究に参加し、参観・協議を行うとともに、小中合同研修会・講演会を設けることで、小中のつながりを大切にしながら授業の充実を図る。

中津第二小学校

研究テーマ

「プログラミング教育を通した論理的思考力の育成」

～ GIGAスクール構想下での学び方・働き方改革 ～

【研究の内容】

新型コロナウイルス感染拡大防止のための学校休業という、これまでに経験したことのない状況からのスタートであったが、子どもたちへの学びを途絶えさせないこと、教員の学び・研鑽を継続することを合い言葉に実践を進めてきた。

- ・教員同士による研修会の実施(プログラミング公開授業・タブレット活用・命の授業・コロナ対策の4コースから選択)
- ・外部講師による講演
- ・ICT端末を最大限活用することによる子どもたちの学びの保障

【成果】

本校では前年度までにiPadを使った授業実践や、Googleツール(Googleドライブ等)の活用を研究してきた。年度当初の休業という状況においても、これらの実践を最大限生かし、計400本以上の学習動画の配信や、ホームページを活用した情報提供など、様々な方策により子どもたちの学習保障を行うことができた。また、コロナ禍においても、田村学先生、松田孝先生、小室淑恵先生など、各氏をお招きして講演を実施。新学習指導要領における指導法や、ICT活用の最先端事例、教員の働き方改革など、多岐にわたるテーマをもとに理解を深めることができた。働き方改革においては、教員の意識改革が促進され、残業時間が大幅に削減するなど成果を上げることができた。

愛川中原中学校

研究テーマ

「主体的・対話的で深い学びの授業実践」

～ 身につけさせたい力を明確にした指導と3観点の評価の在り方 ～

【研究の内容】

- 「授業づくり」～単元計画と評価をふまえて・学習者の立場に立って私の授業から私たちの授業へ(県央教育事務所 教育指導員より)
- 「地域に住むすべての子どもたちが共に学び共に育つ中学校を考える」(滝坂信一先生より)
- 提案授業・研究協議「評価・評定」～妥当性と信頼性を求めて(県央教育事務所教育指導員より)
- 「インクルーシブな学校づくりに向けて」(滝坂信一先生より)

【成果】

来年度の学習指導要領の全面実施に向けて、何がどのように変わるのか、学校ではどのような準備を進めていけば良いか、具体的な話を聞け、見通しを持って取り組むことができた。

高峰小学校

研究テーマ

「学びを楽しむ子の育成」

～ 確かな読みから進める国語指導の工夫 ～

【研究の内容】

今年度より国語科の研究をスタートした。テーマを「学びを楽しむ子の育成～確かな読みから進める国語指導の工夫～」と設定し、授業研究を中心に研究を進めていった。また、1学期には、目標設定と評価について教育指導員による研修、2学期以降、山梨大学の茅野政徳先生や言語教育振興財団理事の輿水かおり先生による講演等で研究を深めた。

【成果】

新しい学習指導要領における目標設定や評価について研修を実施することによって理解が深まった。また、確かな読みについて講演や授業研究を通して学び、深めることができた。